

講義名	経済学入門		
科目区分	学部専門基礎 選択必修		
担当教員	上瀧 真生		
開講期・曜日・時限	後期 木曜日 3時限	授業形態	
履修開始年次	1年生	単位数	2
		備考	

<b>主題と概要</b>			
<p>私たちの衣食住の生活を支えているのは、物やサービスを生産し、流通させ、消費し、廃棄する活動、つまり経済活動である。経済活動は、働き、賃金を得て、消費する家計の活動、物やサービスを生産したり、流通させる企業の活動、家計や企業から税金を徴収し、公共サービスを提供する政府の活動の複雑なからまり合いのなかで進行している。さらに、今日、経済活動は国境を越えて、グローバルに展開している。このような複雑な経済活動について、その方向性やあり方を考えることは、私たちが生きていくうえで必要不可欠なことである。この講義では、経済活動についての基本的な見方・考え方、経済学の基礎の基礎を学ぶ。</p>			

<b>到達目標</b>			
<p>①経済活動についての基本的な見方・考え方を身につけること。 ②その見方・考え方を踏まえて、現実の経済活動で起きていることらについて自分なりの考えをもつこと。</p>			

<b>提出課題</b>			
<p>毎回復習クイズを課す。また、中間レポート試験を課す。</p>			

<b>課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック</b>			
<p>復習クイズについては、次回講義でコメントをつけて返却する。必要な場合、解説や補足説明を行なう。 中間レポート試験については、コメントをつけて返却する。 期末試験については、要望があればコメントを付けて採点結果を伝える。</p>			

<b>評価の基準</b>									
<p>毎回の講義時間内に行う復習クイズ、中間レポート試験、期末試験の総合評価（単純合計）による。ただし、中間レポート試験を提出しない受講生には期末試験の受験資格を与えない。</p> <table border="1"> <tr> <td>復習クイズ</td> <td>毎回2点×15回＝30点</td> </tr> <tr> <td>中間レポート試験</td> <td>最高30点</td> </tr> <tr> <td>期末試験</td> <td>50点</td> </tr> </table>				復習クイズ	毎回2点×15回＝30点	中間レポート試験	最高30点	期末試験	50点
復習クイズ	毎回2点×15回＝30点								
中間レポート試験	最高30点								
期末試験	50点								

<b>履修にあたっての注意・助言他</b>			
<p>経済的なことになじみがないと感じている受講生も多いかもしれないが、実際には私たちの生活は経済的なことがらを基礎として成り立っている。そのことを実感できるよう、日頃から新聞、ニュースなどで経済活動にかかわることから注意を向けてほしい。</p> <p>なお、いかのどおり、受講ルールを定める。</p> <p>(1) 授業開始後15分を経過したのちは、入退室を認めない。 (2) 座席については教員の指示に従う。 (3) 私語は厳禁。目にある場合は退室してもらう。 (4) 携帯電話などの電源は切る。</p>			

<b>教科書</b>
. 使用しない。.

<b>プリント資料及び参考文献</b>
<p>講義中にプリント資料を配付する。</p> <p>参考文献 ゲーリー・E.クレイトン『アメリカの高校生が学ぶ経済学』WAVE出版、2005年 中谷武・中村保編『1からの経済学』碩学舎、2010年</p>

<b>授業計画</b>
<p>01. 経済ってなんだ？ 02. 世の中は分業で成り立っているー機会費用と比較優位 03. 買い手の行動、売り手の行動ー買い手の行動と需要曲線 04. 買い手の行動、売り手の行動ー売り手の行動と供給曲線 05. 商品価格と需給のバランスー市場価格は市場均衡価格を中心に変動する 06. 商品価格と需給のバランスー需要曲線・供給曲線の移動と市場均衡価格の変動 07. 市場にまかせればうまくいくー消費者余剰と生産者余剰（市場参加者の満足度） 08. 市場にまかせればうまくいくー市場均衡価格で市場参加者の満足度は最大になる 09. 市場にまかせてもうまくいかないー不完全競争・外部効果・公共財 10. 市場にまかせてもうまくいかないー情報の偏り・失業・所得格差 11. 一国の経済を考えるーGDPって何？ 12. 一国の経済を考えるーGDPに影響を及ぼす要因 13. お金は経済活動の潤滑油ー貨幣の役割／間接金融 14. お金は経済活動の潤滑油ー直接金融／中央銀行の役割 15. 国や自治体がすることー政府の役割／世界とつながるー外国貿易と為替レート</p>

<b>授業形態（アクティブ・ラーニング）</b>	
ア：PBL（課題解決型学習）	
イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	
ウ：ディスカッション、ディベート	
エ：グループワーク	
オ：プレゼンテーション	
カ：実習、フィールドワーク	

<b>準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間</b>	
毎回の復習	30時間
中間レポート試験の準備	15時間
期末試験の準備	15時間

<b>双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述</b>	
<p>復習クイズの結果を踏まえて、次回講義で必要な解説や補足説明を行なう。 可能な限り、受講生が意見を述べる機会をつくる。</p>	

<b>実務経験の有無及び活用</b>	

<b>備考</b>